

豪雨（大雨・洪水警報等）時の対応について

1 豪雨災害時（大雨・洪水警報発令時）の対応

久茂地川の氾濫に備え、豪雨災害時には、下記の対応を行う。

(1) 大雨洪水警報発令時

○小学校・・・警戒レベル4からは、市教委の避難指示対応や学校長・教頭・安全主任等で対応を検討。

（例）①学校周辺の状況によって下校時に可能な保護者はお迎え対応を協力依頼。

②大雨や洪水になる前に早下校の対応。 等

○こども園・・・警戒レベル3からは、避難指示。

(2) 洪水・浸水時の対応（下校できない場合）

①1階配置の学級（3年・特支学級）は2階以上へ移動する。

- ・図工室（2階）
- ・理科室（3階）
- ・空き教室

(3) こども園の園児は、外階段を利用し2階以上へ移動する。

- ・ランチルーム（2階）
- ・家庭科室（3階）

	教室名	避難学級
3階	第1理科室	1年1組
	第2理科室	1年2組
2階	ランチルーム	こども園
	図工室	特別支援学級

(4) 雷注意報発令中の対応について

参考文献（文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課スポーツ庁地域スポーツ課「落雷事故の防止について」）

- ① 屋外での体育活動等（水泳学習等）において、落雷の危険性を認識し、事前に気象情報を確認するとともに、天候の急変などの場合にはためらうことなく計画の変更・中止等の適切な措置を講ずること。
- ② 落雷の危険がある場合には、すぐに安全な場所（鉄筋コンクリートの建物、屋内等の内部）に避難する
- ③ 中止の判断（例）
 - ・ 厚い黒雲が頭上に上がった際には、雷雲の接近。
 - ・ かすかでも雷鳴が聞こえる際には落雷の危険性が高い。
- ④ 登下校時の安全指導を行う。

情報	とるべき行動	警戒レベル
- 大雨特別警報 - 氾濫発生情報 - キキクル（危険度分布） 「災害切迫」（黒）	地元の自治体が警戒レベル5 緊急安全確保を発令する判断材料となる情報です。災害が発生又は切迫していることを示す警戒レベル5 に相当します。 何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。	警戒レベル5 相当
- 土砂災害警戒情報 - キキクル（危険度分布） 「危険」（紫） - 氾濫危険情報 - 高潮特別警報 - 高潮警報	地元の自治体が警戒レベル4 避難指示を発令する目安となる情報です。危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル4 に相当します。 災害が想定されている区域等では、自治体からの避難指示の発令に留意するとともに、避難指示が発令されていなくてもキキクル（危険度分布）や河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断をしてください。	警戒レベル4 相当
- 大雨警報（土砂災害）※1 - 洪水警報 - キキクル（危険度分布） 「警戒」（赤） - 氾濫警戒情報 - 高潮注意報（警報に切り替える可能性が高い旨に言及されているもの※2）	地元の自治体が警戒レベル3 高齢者等避難を発令する目安となる情報です。高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル3 に相当します。 災害が想定されている区域等では、自治体からの高齢者等避難の発令に留意するとともに、高齢者等以外の方も普段の行動を見合わせ始めたり、キキクル（危険度分布）や河川の水位情報等を用いて避難の準備をしたり自ら避難の判断をしたりしてください。	警戒レベル3 相当
- キキクル（危険度分布） 「注意」（黄） - 氾濫注意情報	避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2 に相当します。 ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。	警戒レベル2 相当
- 大雨注意報 - 洪水注意報 - 高潮注意報（警報に切り替える可能性に言及されていないもの※2）	避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2 です。 ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。	警戒レベル2
早期注意情報（警報級の可能性） 注：大雨、高潮に関して、[高]又は[中]が予想されている場合	災害への心構えを高める必要があることを示す警戒レベル1 です。 最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高めてください。	警戒レベル1